様式第４号

（その１）

学長及び専任教員の個人調書

履歴書				
氏名（フリガナ）	梶井厚志（カジイアツシ）	男・女	本籍地又は国籍	東京都
生年月日（年齢）	（　満　歳　）		現住所	

学歴	
年　月	事　項
昭和61年3月	一橋大学経済学部卒業
昭和61年4月	一橋大学大学院経済学研究科入学
昭和62年8月	同上退学
昭和62年9月	ハーバード大学大学院経済学研究科入学
平成3年8月	同上修了
平成3年11月	Ph.D. in economics （経済学博士）取得（ハーバード大学）

職歴	
年　月	事　項
平成3年9月	ペンシルバニア大学助教授経済学部（Assistant Professor）
平成8年7月	筑波大学助教授社会工学系
平成14年8月	大阪大学教授社会経済研究所
平成15年10月	京都大学教授経済研究所
令和1年9月	関西学院経済学部教授
	現在に至る

様式第４号

学会及び社会における活動等	
年　月	事　項
平成2年8月	The Econometric Society 会員
平成10年4月	日本経済学会会員
平成13年1月	Economics Bulletin 編集委員（Associate Editor）（平成17年2月まで）
平成13年7月	Econometrica 編集委員（Associate Editor）（平成19年6月まで）
平成13年9月	Advisory Board member, Economic Theory Centre, Department of Economics, University of Melbourne
平成14年4月	Japanese Economic Review 編集委員（Associate Editor）（平成27年8月まで）
平成17年1月	Journal of Mathematical Economics 副編集長（CoEditor）（平成25年4月まで）
平成17年4月	Theoretical Economics 編集委員（Associate Editor）（平成25年6月まで）
平成20年4月	日本経済学会常任理事（渉外担当）（平成23年3月まで）
平成22年2月	国家公務員Ｉ種試験・試験委員 (同平成23年,24年)
平成23年4月	社団法人日本経済学会理事（渉外担当）（平成26年5月まで）
平成25年5月	Journal of Mathematical Economics 編集長（Editor-in-Chief）（令和1年12月31日まで）
平成28年1月	Econometric Society, Asia Region Standing committee 代表者（Chair）（令和1年12月31日まで）
令和2年1月	Econometric Society, Asia Region Standing committee 書記（Secretary）（令和3年6月30日まで）

賞　罰	
年　月	事　項
平成19年3月	第3回（平成18年度）日本学術振興会賞受賞
平成20年9月	日本経済学会中原賞
平成24年11月	Econometric Society の Fellow に選出

職務の状況

勤務先	職名	学部、学科等（所属部局）の名称	担当授業科目名	毎週担当授業時間数				備考
				専任	兼担	兼任	計	
関西学院大学	教授							

上記のとおり相違ありません。

2021年7月1日

氏名　梶井厚志　㊞

様式第４号
（その２）

教　育　研　究　業　績　書

2021 年 7 月 1 日

氏名　梶井厚志　㊞

著書, 学術論文等の名称	単著共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
(著書) 1) ミクロ経済学：戦略的アプローチ	共著	2000 年 2 月	日本評論社	従来の標準的なミクロ経済学の教科書とは異なり, 簡単なゲーム理論の手法をもとにして, ミクロ経済学を戦略的行動の視点から解説した教科書 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 (共著者：梶井厚志，松井彰彦)
2) ゲーム理論の新展開	共著	2002 年 4 月	勁草書房 pp. 115–151	共有知識と情報に関して頑健なベイジアン・ナッシュ均衡に関する既存研究のサーベイと将来への展望。 担当部分 第 5 章 pp. 115–151 共有知識と情報頑健均衡 (今井晴雄・岡田章 編 共著者：宇井貴志，梶井厚志)
3) 戦略的思考の技術：ゲーム理論を実践する	単著	2002 年 9 月	中央公論新社	ゲーム理論を用いた経済分析の入門書。身近な話題に多く取材し、戦略的思考法の本質を数式を使わずに解説した。
4) 経済学用語辞典	分担	2006 年 5 月	日本経済新聞社	新書版の経済学用語辞典．ミクロ経済学関連の項目を分担執筆
5) 故事成語でわかる 経済学のキーワード	単著	2006 年 11 月	中央公論新社	中国の故事成語を題材にとり経済学の基本を解説した入門書
6) コトバの戦略的思考	単著	2010 年 2 月	ダイヤモンド社	日常の言葉を題材にとり、経済学・ゲーム理論の立場から分析・コメントしたもの
7) 昔話の戦略思考	単著	2017 年 6 月	ダイヤモンド社	日本の昔話と落語を題材にとり、経済学・ゲーム理論の立場から新たな解釈を試みた
著書　　他 0 編				
(学術論文) 1) A General Equilibrium Model With Fuzzy Preferences	単著	1988 年 4 月	Fuzzy Sets and Systems No. 26 pp. 131–133	消費者の選好関係が、古典的な集合で表される 2 値論理的なものではなく、一般にファジー集合で表される競争市場の一般均衡モデルを考察した。したがって、消費者は財の好き嫌いの順序に関して、あいまいな概念を抱いていてもかまわない。本論文は、そのモデルにおいて、通常の市場均衡の概念を、あいまいな選好を許した場合に拡張して定義し、その存在条件と証明を与えた。
2) Note on Equilibria Without Ordered Preferences in Topological Vector Spaces	単著	1988 年 1 月	Economics Letters No. 27 pp. 1–4	財の数が無限個ある市場モデルにおいて、市場均衡の存在証明を与えた。財の空間はベクトル空間であるが、必ずしも束の構造を要求しない。したがって、たとえば微分可能な経済成長経路の分析に応用できる。
3) A Generalization of Scarf's Theorem: an α -Core Existence Theorem without Transitivity or Completeness	単著	1992 年 2 月	Journal of Economic Theory No. 56 pp. 194–205	戦略形表現の非協力ゲームを考える。プレーヤーの結託が、所与の戦略の組を α ブロックできるとは、その結託がある戦略を採れば、結託に属さないプレーヤーがどのような戦略を採っても、所与の戦略で与えられた効用レベルを超えるようにできることを言う。所与の戦略が α コアに属すとは、α ブロックする結託が存在しないことを言う。本論文は、プレーヤーの選好関係が、必ずしも効用関数で表されないときに、α コアが非空であるための条件を示した。

様式第４号

著書, 学術論文等の名称	単著共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
4) Many Good Choice Axioms: When can Many-Good Lotteries be Treated as Money Lotteries ?	共著	1992 年 4 月	Journal of Economic Theory No. 56 pp. 313–337	期待効用理論が拠り所とする独立性の仮定への批判から生まれた非期待効用理論では、対象として貨幣を支払うくじを考えるのが標準になっている。期待効用理論では、対象を一般の財配分のくじではなく貨幣のくじに限ることでほとんど一般性は失われない。本論文は、非期待効用理論において、対象を貨幣のくじに限ることが一般性を失わないためには、非期待効用理論はそれ自身が批判している独立性に似た意味合いの仮定を潜在的に使わなければならないことを指摘した。 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 (共著者：S. Grant, A. Kajii, B. Polak)
5) Many Good Risks: An Interpretation of Multivariate Risk and Risk Aversion without the Independence Axiom	共著	1992 年 4 月	Journal of Economic Theory No. 56 pp. 338–351	非期待効用理論では、一般に財の配分のくじを考えなければならないが、通常の危険回避行動の理論では、貨幣のくじに関する条件のみが考察されているため、不十分である。本論文は、財の配分のくじを対象としたときのリスクの概念を定義し、その性質を考察した。 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 (共著者：S. Grant, A. Kajii, B. Polak)
6) On Incentive Compatibility and Constrained Optimality of Incomplete Market Equilibria	単著	1993 年 12 月	Hitotsubashi Journal of Economics No. 34 pp. 123–135	市場が完備でないと、一般に競争市場はパレートの意味で最適にはならない。しかしながら、パレート最適性の基準は財の再配分を自由にしているために、間接的に再配分のための情報が完全であることを仮定している。本論文では、情報の量に応じてパレート基準を弱めた場合にも、均衡での財の配分は効率的にはならない例を示した。
7) Anonymity and Optimality of Competitive Equilibria When Markets are Incomplete	単著	1994 年 10 月	Journal of Economic Theory No. 64 pp. 115–129	市場が完備でないと、一般に競争市場はパレートの意味で最適にはならない。本論文は、再配分のための情報が不完全なとき、再配分はインセンティブ整合的なルールで達成できるものに限定すべきであることを論じた。さらに、その制約をおくと、完備でない市場での均衡は効率的といえることを示した。
8) A Cardinal Characterization of the Rubinstein-Safra-Thomson Axiomatic Bargaining Theory	共著	1995 年 9 月	Econometrica No. 63 pp. 1241–1249	Nash の 2 人交渉理論は、各プレイヤーの選好関係に期待効用理論を仮定している。近年, 期待効用理論は、リスクのある状況における人間行動を適格に表現していないと批判され, 多くの非期待効用理論が構成されている。本論文において、Rubinstein-Safra-Thomson 理論では、期待効用理論に基づいた Nash の交渉理論から、殆ど拡張されていないことを指摘し新しい一般化を与えている。 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 (共著者：S. Grant, A. Kajii)
9) How to Discard Non-Satiation and Free Disposal with Paper Money	単著	1996 年 1 月	Journal of Mathematical Economics No. 25 pp. 75–84	財としての直接の価値のない紙幣が、なぜ市場価値をもつのかという古典的問題を考察した。本論文では、合理的期待かつ有限期のみの経済モデルで、紙幣があることによって均衡の存在が保証されていることを示した。 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
10) Common p-Belief: the General Case	共著	1997 年 2 月	Games and Economic Behavior No. 18 pp. 73–82	ゲームのルールの共有認識の問題は、ゲーム理論で重要な役割を果たす。本論文は、共有認識の概念を、ゲーム分析への応用を意識しつつ一般化した。 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 (共著者：A. Kajii, S. Morris)
11) On the Role of Options in Sunspot Equilibria	単著	1997 年 7 月	Econometrica No. 65 pp. 977–986	サンスポット均衡とは、経済のファンダメンタルに依存しない、経済主体の思惑だけで価格が確率的に変動するような市場均衡である。本論文は、整備されたオプション市場があるときに、サンスポット均衡は存在し得ないことを示した。

様式第４号

著書, 学術論文等の名称	単著共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
12) The Robustness of Equilibria to Incomplete Information	共著	1997 年 11 月	Econometrica No. 65 pp. 1283–1309	戦略形表現の非協力ゲームの均衡が、情報の非完備性に対してどれだけ頑健であるかを考察した。まず適切な頑健性の概念を定義し、均衡は必ずしも頑健ではないことを示した。また一般に均衡が頑健であるための十分条件をいくつか示した。 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 (共著者：A. Kajii, S. Morris)
13) Sunspots and the Sequential Regularity of Competitive Equilibria	単著	1998 年 1 月	Journal of Economic Theory No. 78 pp. 187–194	サンスポット均衡の正則性と、ファンダメンタルズの正則性を結び付ける条件を考察した。サンスポット均衡の正則性と、ファンダメンタルの市場がそのすべての部分市場がそれ自体で正則になっていることが同値であることを示した。
14) Constrained Suboptimality in Incomplete Markets: A General Approach and Two Applications	共著	1998 年 5 月	Economic Theory No. 11 pp. 495–522	市場が完備でないと、一般に競争市場はパレートの意味で最適にはならないが、再配分に制約があるとその意味では効率的である場合がある。本論文は、均衡が制約付きで効率的であるかどうかを判断するための一般的なフレームワークを構築し、それを 2 つの例に応用した。 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 (共著者：A. Citanna, A. Kajii, A. Villanacci)
15) Payoff Continuity in Incomplete Information Games	共著	1998 年 4 月	Journal of Economic Theory No. 82 pp. 267–276	非完備情報ゲームの均衡が、情報構造の連続的な変化に対してどのように変化するかを調べた。均衡が連続的に変化するために、情報構造の集合の位相がどのようなものでなければならないかを示した。 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 (共著者：A. Kajii, S. Morris)
16) AUSI Expected Utility; an Anticipated Utility Theory of Relative Disappointment Aversion	共著	1998 年 9 月	Journal of Economic Behavior and Organization No. 37 pp. 277–290	非期待効用選好は、期待効用の一般化であるが、一般化すればそれだけ、モデルでの説明力は低下する。本論文では、期待効用理論に 1 つだけパラメタを付け加えるモデルを公理的に構築し、それで期待効用理論の弱点とされている部分をかなり補えることを示した。 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 (共著者：S. Grant, A. Kajii)
17) Intrinsic Preference for information	共著	1998 年 11 月	Journal of Economic Theory No. 83 pp. 233–259	標準的な情報の価値の理論は、意思決定者がその情報によってどのような成果を得られるかを判断基準にする。本論文は、それでは意思決定者が、不安や好奇心など、情報の出現のプロセス自体を評価する場合を捉えることはできないことを示し、それらの可能性を含めた情報理論のフレームワークを提示した。 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 (共著者：S. Grant, A. Kajii, B. Polak)
18) The Structure of Sunspot Equilibria: the Role of Multiplicity	共著	1999 年 7 月	Review of Economic Studies No. 66 pp. 713–732	This paper establishes the generic existence of sunspot equilibria in a standard two period exchange economy with real assets. We show that for a generic choice of utility functions and endowments, there exists an open set of real asset structures whose payoffs are independent of sunspots such that the economy with this asset structure has a regular sunspot equilibrium. Since an economy with a unique regular non-sunspot equilibrium is robust, this result shows that the multiplicity of non-sunspot equilibria is not necessary for the existence of sunspot equilibria. Our technique is general and can be applied to other frameworks. 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 (共著者：P. Gottardi, A. Kajii)
19) Temporal Resolution of Uncertainty and Recursive Non-Expected Utility Models	共著	2000 年 3 月	Econometrica No. 68 pp. 425–434	If an agent (weakly) prefers early resolution of uncertainty then the recursive forms of both the most commonly used non-expected utility models, betweenness and rank dependence, almost reduce to Kreps and Porteus's (1978) recursive expected utility. 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 (共著者：S. Grant, A. Kajii, B. Polak)

様式第４号

著書, 学術論文等の名称	単著共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
20) Preference for Information and Dynamic Consistency	共著	2000 年 5 月	Theory and Decision No. 48 pp. 263–286	情報選好と、動学的整合性の関係を論じた。情報が通常の意味での価値を持つために、動学的整合性は必要条件ではないことを示した。 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 (共著者：S. Grant, A. Kajii, B. Polak)
21) Decomposable Choice under Uncertainty	共著	2000 年 7 月	Journal of Economic Theory No. 92 pp. 169–197	不確実性の下での意思決定において，行動主体が，不確実性の下での意思決定問題を条件付意思決定問題に分割して（すなわち，ある事象が起こったという条件の下で何をするか，それが起こらなかったという条件のもとで何をするか，というように，条件付の意思決定をかんがえる）問題を解いたとき，それが条件なしの意思決定問題（すなわち事前の効用を最大化する）と同じ解答にいたるかどうかを考えよう．もし同じならば，意思決定問題は分割可能であると呼ぶことにする．いわゆる Savage 型の期待効用理論の下では，分解して解いても，一度に解いても結果は同じである（要するに ex ante utility max と　interim utility max が同じ結果になる）から，意思決定は分割可能である．しかし，その逆は真でないことをこの論文で示した．つまり，意思決定分割可能性は，Savage 型の期待効用理論を必要とはしない．さらに，この論文では，その分割可能性を公理的に characterize した．characterization の中心になるのは「weak decomposability axiom」で，これは Savage の surething principle よりも弱い仮定である．surething principle は，Ellsburg のパラドックスなどいろいろな角度から批判されているが，weak decomposability axiom は Ellsburg のパラドックスと整合的である． 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 (共著者：S. Grant, A. Kajii, B. Polak)
22) Different Notions of Disappointment Aversion	共著	2001 年 2 月	Economics Letters No. 70 pp. 203–208	行動経済学的な status quo バイアスについて、いくつかの可能な考え方を論じた。 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 (共著者：S. Grant, A. Kajii, B. Polak)
23) Third down with a yard to go”: recursive expected utility and the Dixit-Skeath conundrum	共著	2001 年 12 月	Economics Letters No. 73 pp. 275–286	混合戦略均衡に対する、非期待効用的アプローチを論じた 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 (共著者：S. Grant, A. Kajii, B. Polak)
24) Bargaining and Boldness	共著	2002 年 1 月	Games and Economic Behavior No. 38 pp. 28–51	本論文は、リスク選好が期待効用理論に従わない場合を含む一般的な環境における、動学的多人数戦略的交渉問題を考察する。論文の主要な結果は：（１）　部分ゲーム完全均衡である交渉解を外生的に与えられる交渉決裂のリスクに関連付けて特徴づけ、（２）このリスクが減少するとき、交渉解は ”equally marginally bold” と呼ばれる点に収束することを示した。また、（３）”equally marginally bold”　な点は、期待効用のフレームワークで標準的な Nash 解が存在しないケースでも存在することを示すことも示した。本論文は，リスク選好が期待効用理論に従わない場合を含む一般的な環境における、動学的交渉問題を扱った最初の論文である。その枠組みにおいては、これまでの期待効用のフレームワークを応用した先行研究がそろって Nash 解を標準的としてきたのに対して，実は一般的には”equally marginally bold” という概念のほうが有用であることを発見した。 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 (共著者：A. Burgos, S. Grant, A. Kajii)
25) Corrigendum to “Bargaining and Boldnes”	共著	2002 年 10 月	Games and Economic Behavior 41 pp. 165–68	共同研究につき本人担当部分抽出不可能 (共著者：A. Burgos, S. Grant, A. Kajii)

様式第４号

著書, 学術論文等の名称	単著共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
26) A note on the regularity of competitive equilibria and asset structures	共著	2003 年 9 月	Journal of Mathematical Economics, Volume 39, Issue 7) pp. 763–776	正則経済とサンスポット均衡の正則性の関連を明らかにした 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 (共著者：P. Gottardi, A. Kajii)
27) Incomplete Information Games with Multiple Priors	共著	2005 年 9 月	Japanese Economic Review, Volume 56, No. 3) pp. 332–351	古典的なベイジアンゲームを Multiple Priors 型の選好をもつプレーヤーを許容するよう拡張した。 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 (共著者：A. Kajii, T. Ui)
28) Equivalence of the Dempster-Shafer rule and the maximum likelihood rule implies convexity	共著	2005 年 9 月	Economics Bulletin, Volume 4, No. 10 pp. 1–6	Choquet 積分型の選好関係を前提とするとき、Dempster-Shafer rule and the maximum likelihood rule が一致するのは、Capacity が凸であるときに限ることを証明した 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 (共著者：A. Kajii, T. Ui)
29) Auctions with Options for Re-auction	共著	2006 年 3 月	International Journal of Economic Theory, 2 pp. 17–39	インターネットオークションのように、買い手の識別ができない環境で、恣意的な入札が排除できない場合のオークション問題を分析した。 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 (共著者：S. Grant, A. Kajii, F. Menezes, M. Ryan)
30) Agreeable Bets with Multiple Priors	共著	2006 年 5 月	Journal of Economic Theory, 128 pp. 299–305	Multiple Priors の環境で、Bet 型の取引のみが許されているときの、効率性の必要十分条件をもとめた 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 (共著者：A. Kajii, T. Ui)
31) Risk-Free Bond Prices in Incomplete Markets with Recursive Utility Functions and Multiple Beliefs	共著	2006 年 6 月	International Journal of Economic Theory, 2 pp. 135–57	Multiple Beliefs があるときには、市場金利が低めに誘導されることを示した。 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 (共著者：C. Hara, A. Kajii)
32) Local Sunspot Equilibria Reconsidered	共著	2006 年 7 月	Economic Theory 31, no. 3 pp. 401–425	OLG モデルでのサンスポット均衡の特徴づけを再検討した 共同研究につき本人担当部分抽出不可能. (共著者：J. Davila, P. Gottardi, A. Kajii)
33) Cominimum Additive Operators	共著	2007 年 2 月	Journal of Mathematical Economics, Volume 43, Issue 2) pp. 218–230	共同研究につき本人担当部分抽出不可能 (共著者：A. Kajii, H. Kojima, T. Ui)
34) The epsilon-Gini-contamination multiple priors model admits a linear- mean-standard-deviation utility representation	共著	2007 年 4 月	Economics Letters, Volume 95, Issue 1 pp. 39–47	共同研究につき本人担当部分抽出不可能. (共著者：S. Grant, A. Kajii)
35) Welfare Gains and Losses in Sunspot Equilibria	単著	2007 年 9 月	Japanese Economic Review, Volume 58, No. 3 pp. 329–344	サンスポット均衡においては効率性ロスが発生する。しかしながら、特定の個人の立場から見ると、サンスポット均衡においてむしろ高い厚生を獲得できる可能性がある。この論文は、いかなる個人の厚生がサンスポット均衡において改善するのか、特徴づけをおこなった

様式第４号

著書, 学術論文等の名称	単著共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
36) Interim Efficient Allocations under Uncertainty	共著	2009 年 1 月	Journal of Economic Theory, Volume 144, No. 1 pp. 337–53	純粋な投機的個人情報によって取引が発生する可能性を、経済主体が非期待効用型の選好関係をもつ一般的な環境に置いて分析した。厚生経済学の基本定理を応用し、この問題に明快な解答を与えた 共同研究につき本人担当部分抽出不可能. (共著者：A. Kajii, T. Ui)
37) Sunspot Equilibria in a Production Economy: Do Rational Animal Spirits Cause Overproduction?	単著	2009 年 3 月	Japanese Economic Review, Volume 60, No. 1 pp. 35–54	サンスポット均衡においては効率性ロスが発生する。しかしながら、それが過剰生産によるものなのか、あるいは過大生産によるものかは一般にはわからない。本論文では、過大生産が発生する条件を導き、通常想定される仮定の下では、過大生産が起こることを示した。
38) Coextrema Additive Operators	共著	2009 年 4 月	Chapter 6 in S. K. Neogy, A. K. Das and R. B. Bapat (eds.), Modeling, Computation and Optimization pp. 73–95	共同研究につき本人担当部分抽出不可能. (共著者：A. Kajii, H. Kojima, T. Ui)
39) Generalized Utilitarianism and Harsanyi's Impartial Observer Theorem	共著	2010 年 11 月	Econometrica, Vol. 78, No. 6 pp. 1939–71	Harsanyi の古典的な社会厚生関数の導出では、各主体が期待効用理論に従うことが前提とされている。本論文は、まずその前提を取り払って一般的社会厚生関数を導出し、各主体の効用関数がどのような性質を持てば Harsanyi 型の厚生関数が導かれるのかを、詳細に分析した 共同研究につき本人担当部分抽出不可能. (共著者：S. Grant, A. Kajii, B. Polak, Z. Safra)
40) The Myerson value for complete coalition structures	共著	2011 年 11 月	Mathematical Methods of Operations Research, vol. 74 pp. 427–43	共同研究につき本人担当部分抽出不可能. (共著者：A. Kajii, H. Kojima, T. Ui)
41) Equally-Distributed Equivalent Utility, Ex Post Egalitarianism and Utilitarianism	共著	2012 年 7 月	Journal of Economic Theory, Volume 147, issue 4 pp. 1545–71	共同研究につき本人担当部分抽出不可能. (共著者：S. Grant, A. Kajii, B. Polak, Z. Safra)
42) A Generalized Representation Theorem for Harsanyi's ('Impartial') Observer	共著	2012 年 10 月	Social Choice and Welfare 39, No. 4 pp. 833–46	共同研究につき本人担当部分抽出不可能. (共著者：S. Grant, A. Kajii, B. Polak, Z. Safra)
43) Optimal Taxation and Debt with Uninsurable Risks to Human Capital Accumulation	共著	2015 年 11 月	American Economic Review, 205, (Nov 2015) pp. 3443–70	Ramsey 型の最適課税問題を、無限期間の動学的一般均衡モデルで分析した。最適課税レベルは政府の最適な債務額と同時に決定されることを導いた。 共同研究につき本人担当部分抽出不可能. (共著者：P. Gottardi, A. Kajii, T. Nakajima)
44) Constrained Inefficiency and Optimal Taxation with Uninsurable Risks	共著	2016 年 1 月	Journal of Public Economic Theory 18, (Jan 2016) pp. 1–28	Ramsey 型の最適課税問題を、一般的な２期間の動学的一般均衡モデルで分析した。どの生産要素が課税されるべきか、その判断基準となる条件を導いた 共同研究につき本人担当部分抽出不可能. (共著者：P. Gottardi, A. Kajii, T. Nakajima)

様式第４号

著書, 学術論文等の名称	単著共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
45) Approximate Robustness of Equilibrium to Incomplete Information	共著	2016 年 11 月	International Journal of Game Theory 45,(Nov 2016) pp. 839–857	共同研究につき本人担当部分抽出不可能. (共著者：O. Haimanko, A. Kajii)
46) Favorite-Longshot Bias in Parimutuel Betting: an Evolutionary Explanation	共著	2017 年 8 月	Journal of Economic Behavior and Organization 140,(Aug 2017) pp. 56–69	日本の競馬のような Parimutuel Betting　市場において、価格にバイアスが発生する理由を、進化的アプローチから提案した。 共同研究につき本人担当部分抽出不可能. (共著者：A. Kajii, T. Watanabe)
学術論文　他 0 編				
総合計 著書　5 冊 学術論文（査読付き）　45 編 その他　2 編				